

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
ワークショップ2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	佐藤博昭			実務 経験	有	職種					
担当教員紹介											
現職：映像作家 「ブルースンドれい」ほか											
授業概要											
映像記録技術の発生から様々なメディアへの派生を踏まえ、表現方法の変遷をたどりながら進行する。選ばれた撮影対象を映像表現として構成する方法を比較し、さらに作品の発信形態や目的を探り、社会との関係を考察する力を身につける。可能な限り映像作品の試写を行い、各回で具体的なテーマを設定し授業を進める。参照する作品は劇場公開された「映画」に限らない。授業を通じて、映像の歴史と映像表現の多様さを理解し、映像の読解力を身につける。											
到達目標											
1. 映画を発明したのは誰なのか？ この疑問に答えられるようになる。また、映画という記録技術がなぜ複数の地域で多発的に現れたのか？ この疑問を深めることになる。 2. 今日のデジタル映像につながる電子映像の発明を知り、その展開の多様性を理解できるようになる。それらをレポートにまとめることにより、映像に関する知識を定着する方法に出会う。											
授業方法											
各回の授業概要を示したペーパーを配布する。各回のテーマを説明し、参考視聴作品を見る。各回の授業についてコメントペーパーをまとめ提出する。											
成績評価方法											
学期末レポートまたは試験 80％ 平常点 20％ 出席は100％を前提とする。各回のコメントペーパーは授業参加度としてプラス評価する場合がある。											
履修上の注意											
映像表現と歴史・社会との繋がりに重点を置くため、事前に、少なくとも映像文化に対する興味を自ら喚起しておくこと。授業中の私語や受講態度には厳しく対応する。理由のない遅刻・欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は学期末試験を受験することができない。											
教科書教材											
特に指定をしない。毎回の授業のテーマ・内容・作品解説などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	ドキュメンタリー映画の現在 ドキュメンタリー映画の現在の状況を知る。										
第2回	テレビドキュメンタリーの現在形-1 日本										
第3回	テレビドキュメンタリーの現在形-2 海外										
第4回	電子映像の発明と歴史を知る。初期実験映画とビデオアートについて、その表現を観る。日本のビデオアートの展開を観る。特に80年代の学生作品を中心に考察する。										
第5回	アートドキュメンタリーについて 写真家、画家のドキュメンタリーを見る。										

2022年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
ワークショップ2	
第6回	日本のアニメーションの歴史を解説する。若い作家による描画によるアニメーション作品を観る。
第7回	試験対策授業
第8回	定期試験